

新型コロナと喫煙に関する調査結果

※国立がん研究センターによる



喫煙する同居人からの受動喫煙が増えた	33.7%
コロナ禍で吸う量が増えた喫煙者	18.0%
喫煙増加の理由はストレス	49.4%
屋内外の喫煙所閉鎖に賛成	58.3%
コロナ重症化リスクを減らすため「禁煙に取り組みたい」	25.3%

共同通信社「トピック」サイトから

⚠️ たばこの煙は防げません ⚠️

換気扇の下
 ❌

空気清浄機
 ❌

ベランダ
 ❌

車の窓を開ける
 ❌

大阪市 HP から

新型コロナの感染予防のため、出勤せず自宅で仕事をする在宅勤務の人が増えています。一日中家庭で仕事をする喫煙者が増えると、どのような影響がでるのか、国立がん研究センターが調査を行ったそうです。タバコを吸う人と吸わない人、それぞれ1000人計2000人にアンケートしたところ、左図のような結果となったようです。

通常なら職場の喫煙場所などで喫煙していた人たちは在宅勤務により自宅で吸うことになります。すると家族や同居人が、その煙を吸わされる機会が増えるので、「受動喫煙が増えた」と答えた人が33.7%もいたそうです。さらに喫煙者の18%の人が「コロナ禍で吸う量が増えた」と答えていますので、家庭での受動喫煙の状況は悪化していると思われます。

喫煙者にしてみれば、換気扇の下やベランダで吸えば、もしくは空気清浄機を設置すれば家族に迷惑がかからないと思っただけですが、それぐらいでは白い煙は見えなくなっても有害成分を防ぐことはできません。

それに、実は喫煙者が吸い込む煙(主流煙)より、周りの人が吸い込む煙(副流煙・呼出煙)の方が有害成分の濃度が高く、健康に重大な影響を及ぼします。だから受動喫煙を受け続けると左図に

あるような病気になるリスクが高くなると報告されていて、そのために亡くなる方が年間約1万5000人もいっていると言われています。

新型コロナの感染予防のために受動喫煙被害が増えるのは好ましくありません。コロナ重症化リスクを減らすためにも禁煙する人が増えて欲しいものです。

産業デザイン科 奥田 恭久

喫煙者が吸い込む煙よりも、周りの人が吸い込む煙には多くの有害物質が含まれ、健康に重大な影響を及ぼします!

受動喫煙による「病気になるリスク」



脳卒中

1.3倍



肺がん

1.3倍



虚血性心疾患

1.2倍



乳幼児突然死症候群(SIDS)

4.7倍

※出典 厚生労働科学研究費補助金循環器疾患・腫瘍病等生活習慣病対策総合研究事業「たばこ対策の健康影響および経済影響の包括的評価に関する研究」

年間約**15,000**人が亡くなっています。